■記録映画アーカイブ・プロジェクト　第４回ワークショップ

「高度経済成長と地域イメージ—岩波映画『日本発見』を見る—」

記録映画のアーカイブを活用して、映像を用いた多様な研究・教育の可能性を再発見する連続ワークショップを展開中です。その第４回は、岩波映画のコレクションのなかから、初期のテレビ番組を取り上げます。

１９５０年に創業した岩波映画はその頃大型産業映画の制作で急成長し、そこに多くの若手が採用されました。60 年安保も終わり、所得倍増を目指して高度経済成長が加速し、テレビが急速に家庭に入り込む 1960 年代。変わり行く日本の姿を新人の演出家黒木和雄や土本典昭、カメラマンの鈴木達夫たちに任された。彼らは日本の姿をどのように記録したのでしょうか。

今回のワークショップでは、時代を映すといわれる記録映画は何を記録し、何を記録できなかったのか、記録映像の可能性と限界について考えます。
映像を学ぶ若い人にとっても参考になる内容です。

岩波映画製作所が全国の各都道府県を記録した『日本発見』は、1961 年から 1962 年まで、NET（日本教育テレビ）で放送されました。1960 年の安保闘争後、政治から経済に舵を切った日本の各地の地誌・風土を記録した。古き日本とこれからの日本を記録しています。しかし、このシリーズには放送されないまま「お蔵入り」になった作品がいくつかありました。土本典昭氏が監督した『東京都』と、黒木和雄氏が監督した『群馬県』です。これらのフィルムはなぜ問題とされたのでしょうか。

今回のワークショップでは、『日本発見』シリーズの『東京都』『群馬県』の放送バージョンと未放送バージョンを一緒に見比べながら、高度経済成長期における地域のイメージをめぐる政治について多角的な観点から討論します。

東京大学大学院情報学環記録映画アーカイブプロジェクト

日時：2010 年 10 月 11 日〈月祭日〉　13:30-18:00（開場は 13:00）
場所：東京大学本郷キャンパス　情報学環・福武ホール（B2F）（赤門横）
13:00- 開場
13:30- 開会
　総合司会：丹羽美之（東京大学）
13:40- 映画上映『日本発見シリーズ』
　『東京都』１（監督：土本典昭、撮影：奥村祐治 1962 年、29 分）未放送版

『東京都』２（監督：各務洋一、撮影：田村勝志 1962 年、29 分）
『群馬県』１（監督：黒木和雄、撮影：鈴木達夫 1962 年、29 分）未放送版
『群馬県』２（監督：羽仁　進、撮影；栗田尚彦 1962 年、29 分）

15:40- 休憩

16:00- 制作者が語る
吉原順平（元岩波映画製作所　番組プロデュサー）

16:30- パネリスト報告
若林幹夫（早稲田大学）
筒井武文（東京藝術大学）

17:10- 全体討論
吉原順平、若林幹夫、筒井武文、コーディネーター

18:00-　終了

日本発見シリーズについて

岩波映画が富士製鉄に企画提案して採用され、局は企画から制作に全く関与しなかった
１９６１年６月４日～１９６２年５月　まで計５４回　日本教育放送で放送。提供　富士製鉄単独
１６ミリカメラ　モノクロフィルム番組　各編２７分＋３分ＣＭ入りの３０分番組
カンパケを富士製鉄の社内検討委員会が試写し、ＯＫを出したら放送した。
委員会は局、製作者は入らず、内容は担当者より伝えられた。
お蔵入りとなった県は２県、再仕上げは１県で、その費用は岩波の負担であった。
放送後の著作権は岩波映画となる。

撮影体制

・２～３班が同時に撮影をしていた
・スタッフは演出、撮影、撮影、撮影助手の３名
・現地録音は演出が担当、ソニーデンスケ使用
・撮影期間は遠方県で１０日、近県で７日
・編集は演出が３～４日間で完了
・完成まで全体期間は１ヶ月間

原版は保管場所のヨコシネが火災となり消失。１６ミリプリントからデジベに変換した。
シリーズで最も視聴率が良かった沖縄県のネガ原版は近年見つかった。